

平成 17 年度 協働事業評価書（協働パイロット事業）

基本項目

事業名	タバコ喫煙の低年齢化を防止するための小中学生向け喫煙防止講演活動
受託団体	タバコと健康の会・静岡
委託金額	¥ 4 9 9 , 8 0 0 -
目的	タバコ喫煙の低年齢化防止のための小中学生向け講演活動を、腹話術人形や画像、体験プログラムを使用して効果的に実施することを目的とする。
内容	<p>小中学校教員、養護教諭を対象とした啓発活動</p> <p>(1) 対象 小中学校の学校長、養護教員、子ども会役員等への啓発活動</p> <p>(2) 回数 56 校</p> <p>(3) 内容 小中学校等を訪問し、タバコ喫煙の低年齢化防止施策への理解を深め、学校活動の中への組み込みを促した。56 校中、15 校で児童・生徒向け講演の依頼があった。</p> <p>青少年団体指導者を対象とした研修会</p> <p>(1) 対象 子ども会役員等を対象とした研修会</p> <p>(2) 回数 2 回 計 49 名</p> <p>(3) 内容 小中学生を対象とした講演を保護者等に見学していただき、タバコ喫煙の低年齢化防止施策への理解を深める。</p> <p>小中学生を対象とした喫煙防止講演</p> <p>(1) 対象 小中学生</p> <p>(2) 回数 24 校、1 団体 計 6,985 名</p> <p>(3) 内容 小中学校、子ども会等の場で、小中学生を対象とした喫煙防止講演を行ない、理解を深める。</p> <p>事業内容</p> <p>受託団体メンバーによる講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 腹話術人形を使った対話形式 ・ タバコ由来の病気を、ストローなどを使って模擬体験 ・ 実際の手術の様子をビデオ学習 ・ パソコンのプレゼンテーションソフトを使ったわかりやすい説明
成果	<p>体験型のわかりやすい学習方法により、子どもたちの非喫煙に対する意欲が高まった。各講演には教員や保護者もおおぜい参加し、子どもだけでなく、子どもを取り巻く大人の喫煙防止に対する理解が深まった。また、体験型学習に対する理解もあわせて得られた。</p> <p>次年度から、健康づくり推進課が事業化し、継続していくことになった。</p>

評価項目

1. 仕様書記載の事業内容は適正に実施したか？（開催回数、日数、会場、講師選定など）

適正に実施した

おおむね適正に実施した

適正に実施できなかった部分もあった

適正に実施できなかった

【コメント】

啓発活動については、予定を大きく上回る回数を実施した。

研修会については、予定どおりの回数を実施した。

小中学生向け講演は、予定を大きく上回る回数を実施した。

2. 仕様書記載の事業内容を実施した結果、見込みどおりの結果を得られたか？

見込みどおりの結果を得られた

おおむね見込みどおりの結果を得られた

見込みどおりの結果をあまり得られなかった

見込みどおりの結果を得られなかった

【コメント】

教員・指導者向け啓発活動については56回実施し、1団体15校から子ども向け講演の依頼があったことから大きな成果があったといえる。なお、他の9校は、市からの文書による案内がきっかけとなった。

指導者向け研修会については、研修会後に質問が多く寄せられ、成果があったといえる。

小中学生向け講演は、講演前と講演後で、タバコに興味を持つ児童・生徒が大幅に減り、成果があったといえる。

3. 1,2の結果、当初の目的を達成できたか？

当初の目的を達成できた

おおむね当初の目的を達成できた

当初の目的をあまり達成できなかった

当初の目的を達成できなかった

【コメント】

回数と効果共に、非常に大きな成果が得られた。

次年度に、健康づくり推進課で事業化・予算化の方向性となったのは大きな成果である。

4. 協働だからこそ、得られた成果があったか？

協働だからこそその成果が得られた

協働だからこそその成果が少しは得られた

協働だからこそその成果は得られなかった

【コメント】

今回のプログラムは、腹話術、模擬体験など独特で効果的な内容であり、市ではできないものだったが、協働したことで実施することができた。

学校や教育委員会へのアプローチはNPO単独で行なうのは難しく、市の助言や協力による適切なアプローチ方法をもって、市民団体として、各学校に積極的に熱意を持って働きかけをした。